

啄木ゆかりのカルタ寺

本行寺の門信徒会報

— 来た道・ゆくと道 —

第84号

2025年1月1日



FMくしろへリンク

本行寺門信徒会 釧路市弥生2丁目 TEL 41-5329

<http://www5.ocn.ne.jp/~hongyou/>

E-mail hongyouji@poppy.ocn.ne.jp

本行寺本堂・旧納骨堂が 国有形文化財に登録が決定しました!!



昭和8 (1933) 年当時



小屋組の様子



棟札

新年のご挨拶



本行寺 住職 菅原 顕史

明けましておめでとうござい
ます。本年もどうぞよろしくお願い申
上げます。

皆様も昨年11月23日の報道等でご
承知かと存じますが、本堂と旧納骨
堂が国の有形文化財に登録されるこ
ととなりました。正式には3月の官
報告示を以て登録となります。この
榮譽は偏に門信徒の皆様、そして大
正・昭和・平成・令和と今日に至る
まで本行寺を念仏の道場として護持
し発展させて下さったご先祖の皆様
の賜物でございます。

七高僧様のお一人である中国の道
綽禪師様は「前に生まれん者は後を
導き、後に生まれん者は先を訪へ」
というお言葉を残されております。
親鸞聖人も教行信証の中にも引用さ
れている言葉です。皆様は、ゆっく
り父や母、祖父や祖母、ご先祖の皆
様のことを想ったことはあるでしょ
うか。忙しい日々の暮らしの中に

あつて、ゆっくり想ったり考えたり
する時間がないのが実情ではないか
と思います。その忙しい中であえて
時間を作ってみてはどうでしょう。
時間は3分から5分くらいでも良い
と思います。場所も本堂で。私たち
のご先祖も大正時代から変わること
のない本堂で合掌しお参りをしてい
たのです。お念仏の声も響き渡って
いたことでしょう。そして、ご先祖

が焚いた線香の香りが柱の一本一本
に染みついています。それを想うだ
けでも感慨深いものがあります。ご
先祖は心で何を想い手を合わせお参
りをされていたのか。是非とも本堂
で想いを馳せてみて下さい、想いを
聞いてみて下さい。それが、ご先祖
を知り、ご先祖を想う、良いご縁と
なることでしょう。

合掌

新年にあたって



本行寺 会長 菅原 顕史

明けましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、ご
家族お揃いで健やかな新春を迎えら
れたこととお慶びもうしあげます。
昨年は会の運営にご支援ご協力を
いただき、予定した事業も滞りなく
執行することが出来たことは、会員
の皆様のお力添えのおかげと厚くお
礼申し上げます。

総理大臣が替わり、新体制のもと
で政治改革が行われようとしていま
す。

鉦路でも、新市長が誕生しました。
国の政治がどう変わるのか？物価高
の状況はいつまで続くのか？不透明
で先が見えないように思います。
新市長のもとで、市民の暮らしは、
市の活性化はどのように進むので
しょう！住みよい暮らしを求めるの
は高齢者だけではないはずで
皆さんもこのような不安と悩みを
お持ちと思いますが、いかがでしょ
うか？

「阿弥陀さまのご本願」により、
生かされている私たちにとって、身
近な悩みが解決されることを願うこ
の頃です。

雑感をのべて、新年の挨拶とさせ
ていただきます

合掌

新任のご挨拶



ぬのめ ゆうじ
布目 勇仁

私は富山県出身で鉦路に住居を移
して現在九年目になります。鉦路に
来てからは資源リサイクルの会社
勤務していましたが、この度ご縁を
戴き、令和六年十月に得度習礼を修
了し僧侶となり、本行寺にお世話に
なりますことを皆様にご挨拶申し上
げます。

私が本行寺に初めてお参りしまし
たのは、令和二年一月に祖母を亡く
し、その後同年四月に行われた日曜
礼拝です。私の実家も「お西さん」
の門徒なのでお寺でのお参りとはど
のようなことが行われるのかと興味
を持ったことがきっかけでした。

その後もできる限りお参りさせて
頂き、本行寺のご門徒の皆様方と少
しずつではございますがご挨拶させ
て頂くようになりました。

お寺の世界はまだまだ右も左もわ
からない若輩者ではございますが
「和顔愛語」の文言を肝に命じて精
進していく所存です。ご門徒の皆様
方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお
願い致します。

宗祖 報恩講法要 令和六年十月十六日

院代 相 撲 浩 心

昨年も新型コロナウイルス以来続いております日程で、院内だけでのお勤めとなりました。

法要はご満座法要と永代経法要を併せて一座法要という寂しい形の報恩講法要となりました。

御講師の先生は滋賀県より鎌田宗雲先生を四年ぶりにお迎えしました。全国で引つ張りだこの布教使の先生で大



変貴重なご法話をご聴聞させていただきました。私事ですが鎌田先生とは宗ちゃん・浩ちゃんと呼び合う中でプライベートでも親しくさせていただいております。その中の話で年齢的にも最後の「釧路ファイナルステージ」と言っていましたので感慨深いものがありました。

法要で読まれる表白の中の亡くなられた方々のお名前を聞くと、本行寺で勤務し三十七年、様々な思いが甦りました。悲しきかな、歳を重ねると出会いよりも別れの方が多くなります。

生者必滅（生きているものは必ず死ぬこと）会者定離（出会った人とは必ず別れること）愛別離苦（愛しき人とも必ず別れなければならない苦しみ）を、あらためて思い知らされました。来年こそは通常の報恩講ができるよう、願っております。

今年お参りに来られた方も、来られなかった方も、来年の報恩講には是非お参りくださいますようお願い申し上げます。

親鸞聖人御絵伝、鎌田宗雲師の法話を聴いて

広報部 山本悦也



報恩講に必ず、本行寺の本堂に飾られる四幅の掛け軸があります。親鸞聖人の90年の生涯が絵巻物になったものです。今回、鎌田宗雲師に解説していただきました。

この絵巻物は、親鸞聖人33回忌法要にあたり、曾孫の覚如宗主が作られたものです。巻物には、絵の部分（御絵伝）と言葉書き（御伝鈔）の部分があり、絵の部分だけを独立させて掛け軸にしたものです。向かって一番右下から上へと見ていくと良いということです。

親鸞聖人は、平安時代の終わりに京都でお生まれになりました。一番初め

に数え年9歳で慈鎮和尚の所に行つて、出家得度（剃髪）をした場面が描かれています。比叡山で20年間、厳しい修業を積み29歳の時、法然聖人に出会い念仏門の教えをいただきます。

「凡夫（煩悩）に支配されて生きていく人間」がそのまま浄土へ往生させていただけると阿弥陀如来様の本願他力」を会得しました。

しかし、35歳の時、念仏禁止令（1207年）が出て越後（新潟）へ流罪になります。法然聖人は、土佐（高知）へ流罪になりました。門弟たちが悲しんで送り出す様子が表情豊かに描かれています。

そして、最後には90歳（1263年）でお亡くなりになり、茶毘に付される場面が描かれています。この時代に土葬ではないのは驚きました。鎌田先生、わかりやすくお話をしていただきました。ありがとうございました。



寺子屋 子どもの集い

子どもの集い担当

岡西 慶照

令和六年七月三十、三十一日に本行寺において、寺子屋子どもの集いが開催されました。今年は、昨年より多く、三十三名の子供さんに参加していただきました。

笑顔いっぱい、元気いっぱいの子供さんの姿を見ることができて、二日間通して楽しんでもらえたのではないかと思います。

また、今年は九州の「遊びの研究所」より中島 宏先生をお招きし、先生にはゲームを担当していただきました。体を動かすだけではなく、頭を使いチームで協力しながら取り組むゲームや、身近にあるものを使い楽しめるゲームなど、楽しく真剣に取り組む子供さんの姿を見て、スタッフとしてもとても勉強になりました。

また、楽しみの中にもほとけさまの教えに触れてもらえた事も、大きな成果であり、これからも継続していきたいと感じております。

今後もこのような縁を深めていただけますように、青年会の活動に取り組みたいと考えておりますので、ぜひたくさんのご参加をスタッフ一同お待ちしております。

合掌



小学三年 星 瑛 仁

来た時は、きんちょうしていただけ、ゲームなどをやって、みんなでやきにくなどを食べて、楽しくなってきました。

ぼくは、今日ときのうで、お寺は、いいところだと、想いました。

小学四年 工 藤 勘 太郎

寺子やでは、いろいろな楽しいことをしました。

そのなかでもいちばん楽しかったことは、いろいろな友達とバーベキューや遊びをしたことです。

またこんどいきたいです。

小学五年 今 幹 太

来た時は、きんちょうしていただけ、ともだちつくるみたいになやつで、いろんな人と交流でいろいろな友だちができた。きんちょうもしなくなってきた、オリエンテーションもたのしかった。きもだめしで、めっちゃ、はんの人がびびってた!! (自分が一番びびった)。

花火がめっちゃたのしかったし、すごきれいでよかった。めっちゃきてよかったです。

小学五年 小 林 も え

この一日間すごして大事ななんだと思うことが一つありました。それは、じょうしょうかいです。最初にやったじょうしょうかいゲーム?みたいなものです。やる時は、はじめは、すかしくてなにもしゃべれなかったけれど、ゆうきをだしてしゃべったら、みんなしっかり話してくれたし相手のこともよくわかって、それからはんの子たちとしゃべれるようになったりしました。それで大切なんだと分かりました。

楽しかったこともたくさんありました。みんなゲームをしたり、みんなごはんをたべたり、とにかくみんなで、こつりゅうでできることがたくさんあってすごく楽しかったです。

でもとくにたのしかったのはきもだめしで、最初はこわいかなと思っただけで、はんの人がおもしろくてさいこうのきもだめ

しになりました。とにかく全部楽しかったです。

中学二年 下 山 未 来

この二日間を通して一番楽しかったと感じたのは花火です。大親友と二人で花火を見たり、手持ち花火の火を分け合いっこをしたりしてとても楽しかったです。花火をするために外に行った時の星がとてもきれいで、大親友と二人で「これ火星じゃない?」「こつちかも...」と会話をしながら星空を見るのもとても楽しかったです。

次に楽しいなと感じたのはゲームです。全てのゲームはしていませんが、とても楽しいなと感じました。ジャンケンの時、何回も負けていたのに、いざ負けた方が勝つ!!という時には勝ってしまう...というナゾの状態に何回もなったので、「あれは何だったんだ?」と楽しさと混乱が入りまじった感じで...何か楽しかったです!!

次に来た時は、他の友達もつれてきたり、あとは...きもだめしで泣かないようにがんばります...



本行寺歴史探訪

—その26—

「遍照十方」編集委員

福田 昭 南

扁額「遍照十方」

本堂の外陣正面に掲げられた「遍照十方」の扁額をご存知でしょうか。横1m、縦1・5mほどの大きなもので黒の漆地に金文字で彫られています。

これは昭和三十六年、当時総代であった小城嘉次郎さん、小城幸作さん（義弟）が寄進されたもので、以来六十年余りにわたり本行寺と共に歴史を刻んできました。

「遍照十方」とは—あまね遍く十方を照らす—という意味で、阿弥陀如来の教えを表現したことばです。字体

は西本願寺、大谷光照ご門主（第二十三世）が揮毫したものでその原本は不明ですが、力強い筆運びの中に温かさを感じるすばらしい文字です。

光照ご門主は本行寺にも昭和十三年と同十二年の二回ご来寺になっ

ていますが、二回目

に來た折に賜ったと伝えられるご門主直筆の掛軸が本行寺に保管されており、これには「遍照十方土」と認められています。

表具は本表装で下軸には左右に下り藤の宗紋を施した豪華な造りになっています。これからみ

本堂に掲げられた『遍照十方』



光照ご門主直筆の掛軸

て、当時の光照ご門主は經典（觀無量壽經）から引用したことばとはいえ「遍照十方」の文字を好んで揮毫したのではないかと推測されます。

この扁額が本行寺に掲げられたのは昭和三十六年のこと。この年は本行寺にとって大きな節目の時でありました。第四世覺也住職が五月にご住生され、悲しみも癒えぬ九月十一日、第五世也住職の継職法要が盛大に執り行われていきます。それは門信徒にとっても悲しみと期待の中で迎えた新たな時代の幕明けでした。

こうした状況の中で当時総代を務め篤信家で知られる小城嘉次郎さんが、将来に残る記念として、この扁額を寄進されたことは、まさに機を得た心くばりであったらうと思います。

真宗寺院の本堂は門信徒が心を寄せ、聴聞する場であることから広く造



下軸に施された下り藤

られているのが特徴です。その広い本堂を隅々まで照らすかのようになく掲げられた「遍照十方」。平成二十三年に発刊した開教百年記念誌の題名を「遍照十方」とした由来もここににあります。

門信徒のみなさんには、お骨堂参りの折にでも本堂に立ち寄り、この「遍照十方」を見上げ、ご本尊に手を合わせてみて下さい。きっと無限の光に照らされている自分を実感することでしょう。

一言一味

世俗のことがらに触れても、その人のころが動揺せず、憂いなく、汚れを離れ安穩であること。これがこよなき幸せである。

スッタニパータ(原始經典より)

特別講演会

「仏教が教える健康長生き」を聴いて

山本悦也

令和6年7月6日、本行寺で田畑正久師による特別講演会がありました。田畑師は、お医者さんでありながら、仏教を取り入れて、医療活動に生かしています。ご自身は大分県円徳寺の門徒であります。

田畑先生のレポートから、特に印象に残った言葉を列挙します。

①星野富弘(20歳代教員をしていた時、けがで脊髄損傷、首から下がマヒ、車いす生活)

命が一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。命より大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった。

②フランクフル(オーストリアの精神科医)

周りの、外の状況がよくなれば、自分たちは幸せになれると思っている人たちは、強制収容所に入ったら絶望しかない。そういう人たちは皆、

殺される前に潰れていった。

③羽矢辰夫(宗教学者)

私の人生は一回だけで、死んだら終わり。だから、生きているうちに、楽しいこと、心地よいことをするしかない。私だけが幸せになることが、人生の目的である(反語的)。

④細川巖(化学者・仏教学研究)

人生を結論とせず、人生に結論を求めず、人生を往生浄土の縁として生きる、これを浄土真宗という。

田畑先生は、普遍的宗教は「存在の満足(知足)」に目覚める教えだと言っています。本当に健康で長生きするということは、病氣や障がいに関わらず、充実した人生を送っているかということです。マスクミなどでよく使われる健康寿命とは違うことがよく分かりました。田畑先生、ありがとうございます。

北海道教区釧路組
親鸞聖人御生誕八五〇年
立教改宗八〇〇年慶讃法要

光寿会 板 宗利

令和六年十月三十一日、本行寺本堂で各寺の釧路組門信徒の皆様が参拝して下さいました。

法要では、島根県より高曾寺住職であります武田正文師の法話を聴聞させていただきました。武田先生は法務のかたわら、学校や企業でカウンセラーとして臨床に携わっておられます。臨床心理士であり、広島大学客員講師と

編集後記

久しぶりに編集後記の依頼をいただきました。

水口広報部長をはじめ、広報担当の皆様には会報の編集発行にご尽力をいただきありがとうございます。感謝申し上げます。

幸仁住職在任中に広報担当を委嘱され、広報の在り方について議論したことをなつかしく思い出したところです。会報とは、寺報とは、と話し合い、両者の折衷案のようなかたちとして現

して「武田正文の仏心チャンネル」を発信して社会的に活躍され、今回の法話はとても味わいのあるお話をいただき、今後の自分の人生に勇気と希望を与えてもらいました。

●門徒僧侶合同研修会●

(仏教壮年会研修会併修)
お聖教を学ぶ 公開講座

「大経のいふこと」

◆日時 令和7年2月4日(火)

午後1時から午後2時半頃まで

(受付午後1時 開会式午後1時15分)

◆場所 本行寺(釧路市弥生2-11-22)

◆受講料 無料(どなたでも参加出来ます)

在のようになったと記憶しています。

会報の発行には課題も抱えています。原稿執筆依頼の選定、会報の内容のマンネリ化、さらには読んでいるだろうか?等々。

「表題」の言葉にある「来た道・ゆく道」の意味はなにを示しているのだろうか?過去と未来、即ち「お寺や門信徒会の過去と未来は?」と、案じている言葉と理解してください。そのように考えて会報発行をご理解いただき、お読みくださるようお願いいたします。(種市記)